

<資料>

2017年における大学生の喫煙行動

Smoking Behavior of Undergraduate Students in 2017

中島 孝子*

Takako Nakashima

喫煙は多くの場合若年時に開始される習慣である。本論では、大学生の喫煙行動の実態を知ることがを目的としてアンケート調査を行った。喫煙経験率は21.0%で、これまでの調査結果に比べ低い。家族に喫煙者がいる場合、父がたばこを吸う割合が高い。家族がだれも喫煙しないことと喫煙経験の有無および、喫煙者であることと友達が喫煙することは関連しない。最初の1本を吸った時期として20歳が多い。

キーワード：大学生、喫煙行動、喫煙経験率、最初の1本を吸った時期

I. はじめに

喫煙という習慣は、多くの場合若年時に開始される。養輪他¹⁾によれば、喫煙という習慣を始めるかどうかは主として20歳代前半までの若年者の問題である。実際、中尾他²⁾は大学1、2年生を対象とする調査結果において、毎日たばこを吸うと回答した喫煙者のうち、18歳で習慣的喫煙を開始した者が最も多いことを報告している。また、漆坂他³⁾、東山他⁴⁾および岩村他⁵⁾は大学学部生を対象とする調査結果において、喫煙者が初めてたばこを吸った年齢として、20歳の回答が最も多いことを報告している。

本論は大学生を対象に実施されたアンケート調査の結果である。調査の目的は、喫煙経験の有無、最初の1本を吸った時期および現在の喫煙状況など、大学生の喫煙行動を調べることである。

以下に調査結果を要約する。回答者の平均年齢は20.4歳、喫煙経験者は回答者全体で21.0%であり、これらの喫煙経験者が「最初の1本を吸った時期」は「20歳」が最も多く、次いで「中学2年」「16歳」「19歳」が多い。本調査における喫煙経験率は、2009～2016年における本学での調査結果^{6) 7) 8) 9) 10) 11) 12) 13)} (以下、2009年調査、2010年調査、2011年調査、2012年調査、2013年調査、2014年調査、2015年調査、2016年調査)のなかで最も低い。いくつかの項目を取り出して統計的検定をおこなった結果、(1) たばこを吸う家族がいるかどうかと、喫煙経験の有無との間には統計的に有意な関連がない。(2) 喫煙経験者の現在の喫煙量と、最初の1本を吸った時

期との間には統計的に有意な関連がない。(3) 喫煙者であることと友達が喫煙することは統計的に有意な関連がない。

以下では、II章でアンケート結果の概要を、III章で比較と考察を、IV章でまとめを述べる。

II. アンケート結果

アンケートは、大学2年生以上を対象とする講義の受講者に対して、2017年10月に匿名自記式質問紙調査によっておこなった。質問は全部で15問あり、喫煙経験の有無により一部質問が異なる。アンケートの回答用紙を返却した77人のうち62人分を有効回答として集計および分析対象とした(有効回答率80.5%)¹⁴⁾。

表1に回答者の基本属性と周囲の喫煙状況、および喫煙経験について集計した。回答者のうち、男性は45人(69.2%)、女性は17人(26.2%)である。回答者は18-20歳に属する者が最も多く(67.7%)、平均年齢は20.4歳である。家族や友人などについて、「友達」がたばこを吸うという回答が最も多い(53.2%)。家族の中では「父」が吸うと答えた者が最も多い(29.0%)。以下「母」(12.9%)、「祖父」(11.3%)の順となる。家族以外では、「友達」の次に「先輩・後輩」(29.0%)が多い。喫煙経験者は、アンケート調査日までに1回でもたばこを吸ったことがある者とする。本調査における喫煙経験者は13人である(回答者の21.0%)。

表1. 回答者の基本属性、周囲の喫煙状況、および喫煙経験

		人数	割合(%)
性別	男性	45	69.2
	女性	17	26.2
年齢分布	18-20	42	67.7
	21-22	18	29.0
	23以上	2	3.2
平均年齢		20.4歳	
たばこを吸う家族や友人 (複数回答)	父	18	29.0
	母	8	12.9
	祖母	3	4.8
	祖父	7	11.3
	兄	4	6.5
	姉	2	3.2
	妹	0	0.0
	弟	0	0.0
	友達	33	53.2
	先輩・後輩	18	29.0
	先生・指導者	5	8.1
	その他	4	6.5
誰も吸わない	1	1.7	
喫煙経験者の人数と割合	全体	13	21.0
	男性	13	28.9
	女性	0	0.0

表2は回答者全体への質問に対する回答の集計結果である。

回答者全体について「5年後にたばこを吸っている」という回答は14.5%を占める。

喫煙と健康に関する知識として、脳卒中、肺がん、食道がん、胃がん、心筋梗塞、膀胱がんの6種類の疾病を挙げ、その中で喫煙者の死亡確率が非喫煙者の10倍以上であるものを選ばせた。6つの疾病のうち死亡確率に10倍の差があるのは肺がんと食道がんである¹⁵⁾。正しい選択肢を選んだ場合と正しくない選択肢を選ばなかった場合にそれぞれ1点を与え、最高得点を6点とした。回答者全体の平均点は4.1点で、得点分布は5点をピークとしている。

加濃式社会的ニコチン依存度調査(KTSND)を実施した。この調査は社会的ニコチン依存を評価するもので、30点満点で9点以下が正常範囲とされる。KTSNDは喫煙に対する心理的な依存を評価するため、喫煙者だけでなく非喫煙者も回答できる¹⁶⁾。正常範囲を意味する9点以下の人数は20人で回答者の約3割、回答者全体の平均点は12.2点である。回答者の得点が正常範囲を外れる割合が高いという結果は、柴田¹⁷⁾でも指摘されている。

表2. 回答者の5年後の予想、喫煙と健康に関する知識、加濃式社会的ニコチン依存調査

		人数	割合 (%)
5年後の予想	5年後にたばこを吸っている	9	14.5
	5年後にたばこを吸っていない	53	85.5
喫煙と健康に関する知識の得点分布	0点	0	0.0
	1点	0	0.0
	2点	4	6.5
	3点	16	25.8
	4点	15	24.2
	5点	24	38.7
加濃式社会的ニコチン依存調査 (注:9点以下が正常範囲)	6点	3	4.8
	得点 0-9点	20	32.3
	10点以上	42	67.7
	平均点		12.2点

表3は喫煙経験者を対象とする質問に対する回答の集計結果である。

喫煙経験者13人のうち、最初の1本を吸った時期として、回答割合が最も高いのは「20歳」(23.1%)である。次に「中学2年」「16歳」および「19歳」である(いずれも15.4%)。「21歳以上」の割合はゼロであった。本調査の喫煙経験者は、最も早い場合で小学校で最初の1本を吸い、毎年10%~20%程度が新たに最初の1本を吸ったと解釈できる。

最初のたばこを吸ったきっかけとして、「友達にすすめられて」が最も多く(53.8%)、次に「興味があった」「なんとなく」「親にすすめられて」「家にたばこがあった」が続く(複数回答)。「兄弟・姉妹にすすめられて」および「先輩にすすめられて」の回答者はゼロであった。

喫煙経験者に対して、これまで吸った本数をあわせると100本を超えるかどうかを尋ねた。これまで吸った本数が100本を超えている場合、現在または過去に喫煙が習慣となっている(いた)

と解釈できる。喫煙経験者の76.9%が「100本を超える」と答えた。

喫煙経験者の現在の喫煙量として、最も多いのは喫煙量が「1日11～20本」である(38.5%)。次に「1日1～10本」(23.1%)、「1日21本以上」(15.4%)という回答が多い。毎日喫煙している者(カテゴリー1～3)の喫煙経験者に占める割合は7割を超える(77.0%)。

表3. 最初の1本を吸った時期、たばこを吸ったきっかけ、現在の喫煙状況(喫煙経験者)

		人数	割合(%)
最初の1本を吸った時期	小学校	1	7.7
	中学1年	1	7.7
	中学2年	2	15.4
	中学3年	1	7.7
	16歳	2	15.4
	17歳	0	0.0
	18歳	1	7.7
	19歳	2	15.4
	20歳	3	23.1
21歳以上	0	0.0	
喫煙経験者が最初にたばこを吸ったきっかけ(複数回答)	親にすすめられて	1	7.7
	友達にすすめられて	7	53.8
	兄弟・姉妹にすすめられて	0	0.0
	先輩にすすめられて	0	0.0
	興味があった	2	15.4
	家にたばこがあった	1	7.7
なんとなく	2	15.4	
これまで吸った本数の合計	100本を超える	10	76.9
	100本を超えない	3	23.1
現在の喫煙量	1 1日21本以上	2	15.4
	2 1日11～20本	5	38.5
	3 1日1～10本	3	23.1
	4 週に数本程度	1	7.7
	5 月に数本程度	0	0.0
	6 毎日必ずではなく、気が向いたときだけ	1	7.7
	7 すったことがある程度で、習慣ではない	1	7.7

ここで、回答者を喫煙経験の有無および現在の喫煙量に応じて2つのタイプに分ける。1つは、喫煙量のカテゴリー1～6に含まれる者である。これを「喫煙者」と定義する。もう1つは、喫煙量のカテゴリー7に含まれる者および喫煙未経験者である。これを「非喫煙者」と定義する。

非喫煙者(合計50人)に対して、たばこを吸わない理由を複数回答で尋ねた(表4)。最も多いのが「健康のため」(84.0%)であり、次に「たばこが嫌い」(52.0%)、「たばこの値段が高い・お金がもったいない」(42.0%)という回答が多かった。

将来の喫煙について、喫煙者と非喫煙者に分けて集計した(表5)。喫煙者は58.3%が「5年後にたばこを吸っている」と回答しているのに対し、非喫煙者は、96.0%が「5年後にたばこを吸っていない」と回答している。回答者全体では「5年後にたばこを吸っている」という回答は14.5%

を占める。

2010年10月、たばこ消費税が増税された¹⁸⁾。増税に伴い、たばこ価格は値上げされ、銘柄にもよるがたばこ1箱あたり(20本入り)で300円前後だったものが、およそ400円前後となった^{19) 20) 21)}。この事実について知っているかどうか尋ねたところ、回答者62人のうち、「知っている」が48人、「知らない」が14人であり、77.4%の者がたばこ価格の値上げについて知っていた。

表4. 喫煙をしない理由

	人数	割合 (%)
健康のため	42	84.0
人の迷惑を考えて	10	20.0
機会がなかった	6	12.0
たばこが嫌い	26	52.0
値段が高い・お金がもったいない	21	42.0
その他	5	10.0

表5. 5年後の予想

	人数		割合 (%)	
	喫煙者	非喫煙者	喫煙者	非喫煙者
5年後にたばこを吸っている	7	2	58.3	4.0
5年後にたばこを吸っていない	5	48	41.7	96.0
合計	12	50	100.0	100.0

表6. たばこ価格が変化した場合の喫煙量

	人数				割合 (%)			
	たばこ1箱(20本)の価格				たばこ1箱(20本)の価格			
喫煙量	200円	600円	800円	1000円	200円	600円	800円	1000円
1 1日21本以上	4	4	3	4	6.5	6.5	4.8	6.5
2 1日11~20本	6	3	4	3	9.7	4.8	6.5	4.8
3 1日1~10本	4	3	0	1	6.5	4.8	0.0	1.6
4 週に数本程度	1	0	1	1	1.6	0.0	1.6	1.6
5 月に数本程度	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
6 毎日必ずではなく、 気が向いたときだけ	4	4	3	1	6.5	6.5	4.8	1.6
7 吸わない	43	48	51	52	69.4	77.4	82.3	83.9
合計	62	62	62	62	100	100	100	100

仮想的な質問として、たばこ1箱(20本入り)の価格が200円、600円、800円、1000円に変化した場合における喫煙量を回答者全員に尋ねた(表6)。たばこ価格が低い場合(1箱200円)に比較して、600円、800円、1000円と価格が上がっていくにつれて、「吸わない」(カテゴリー7)と答える者が増加する。「1日21本以上」、「1日11~20本」、および「1日1~10本」(カテゴリー1~3)では、全体としては価格が上昇するにつれ回答者数は減少する傾向にあるが、一部で逆の動きをみせる。例えば、「1日11~20本」においては600円から800円に価格が上昇するとき、

人数がむしろ増加している。「週に数本程度」(カテゴリ4)の回答者数はほぼ横ばいであるが、200円から600円にかけて減少し、600円から800円にかけて増加する。「月に数本程度」(カテゴリ5)の回答者数は価格に係わらず一定(ゼロ)である。「毎日必ずではなく、気が向いたときだけ」(カテゴリ6)の回答者数は価格の上昇とともに減少する。これらの結果は、たばこ価格が仮に1箱(20本)あたり1000円まで上昇しても喫煙者はゼロにならないが、価格の上昇が「吸わない」と望む者を増加させることを示唆する。

Ⅲ. 比較と考察

1. 喫煙経験と家族の喫煙状況

喫煙経験の有無別に、家族の喫煙状況について「誰かが吸う」か「誰も吸わない」かに注目し、クロス集計表を作成した(表7)。「家族が誰も吸わないほど喫煙経験がない」と予想し、帰無仮説を「喫煙経験と家族に喫煙者がいるかどうかとは関連がない」として、独立性の検定をおこなった。その結果、帰無仮説は棄却されなかった。すなわち、喫煙経験の有無と家族に喫煙者がいるかどうかは関連しているとはいえない(カイ二乗検定、有意水準0.05)。

表7. 喫煙経験別のたばこを吸う家族(人)

	喫煙経験あり	喫煙経験なし	合計
家族が吸わない	6	25	31
家族の誰かが吸う	7	24	31
合計	13	49	62

表8. 最初の1本を吸った時期

最初の1本を吸った時期	日常的な喫煙者		日常的でない喫煙者		合計	
	人	累計	人	累計	人	累計
小学校	1	1	0	0	1	1
中学校	4	5	0	0	4	5
高校	2	7	1	1	3	8
高校以降	3	10	2	3	5	13
合計	10		3		13	

2. 喫煙経験者における最初の1本を吸った時期と現在の喫煙量

ここでは、喫煙経験者13人を喫煙量に応じて2タイプに分ける。1つ目は、喫煙量のカテゴリ1~3に含まれ、毎日喫煙している喫煙経験者である。これを「日常的な喫煙者」と定義する(10人)。2つ目は、喫煙量のカテゴリ4~7に含まれ、たまに喫煙をする、または現在は喫煙をしない喫煙経験者である。これを「日常的でない喫煙者」と定義する(3人)。さらに、最初の1本を吸った時期を、「小学校」「中学校(中学1~3年)」「高校(16~18歳)」「高校以降(19歳以上)」の4つに集約する。

日常的な喫煙者および日常的でない喫煙者それぞれについて、最初の1本を吸った時期を集計し、累計をとると表8のようになる。本調査における2つのタイプの喫煙経験者を比較すると、日常的な喫煙者では「中学校」で、日常的でない喫煙者は「高校」「高校以降」で初めて喫煙したと回答した。つまり、(1) 日常的な喫煙者では中学校で吸い始めた者が多く、(2) 非日常的な喫煙者では高校以降に初めて吸った者が多い。

ここで、現在の喫煙量と最初の1本を吸った時期の関係について、帰無仮説を「日常的な喫煙者と日常的でない喫煙者で最初の1本を吸った時期は同じ」とし、独立性の検定を行った。カイ二乗検定の結果、帰無仮説は棄却されなかった(有意水準0.05)。すなわち、日常的な喫煙者と日常的でない喫煙者の最初の1本を吸った時期が異なるとはいえない。

3. 喫煙経験者：これまでの喫煙量が100本を超える者と超えない者の喫煙量

これまでの喫煙量が100本を超えているかどうかは、過去または現在における喫煙習慣の有無を判断する指標である。表9を見ると、これまでの喫煙量が100本を超える喫煙者については、「1日11~20本」および「1日1~10本」吸っている者(カテゴリー2、3)が多い。「1日21本以上」吸っている者(カテゴリー1)も加えると、これらの者は現在においても喫煙が習慣となっていると考えられる。しかし、これまでの喫煙量が100本を超えていながら「週に数本程度」と答えた者(カテゴリー4)については、かつては喫煙が習慣であったが、現在は、ときおり、あるいはほとんど喫煙しなくなったと解釈できる。

これまでの喫煙量が100本を超えない者のうち、「1日21本以上」の者が1名いる。この回答者は調査日に非常に近い日に日常的に喫煙を始めたが、まだ喫煙量が100本を超えていないと解釈できる。しかし、すぐに100本を超えることになるかと推測される²²⁾。

表9. これまでの喫煙量が100本を超える者と超えない者の現在の喫煙量(人)

喫煙量	100本を超える	100本を超えない	合計
1 1日21本以上	1	1	2
2 1日11~20本	5	0	5
3 1日1~10本	3	0	3
4 週に数本程度	1	0	1
5 月に数本程度	0	0	0
6 毎日必ずではなく、気が向いたときだけ	0	1	1
7 吸ったことがある程度で習慣ではない	0	1	1
合計	10	3	13

4. 仮想的なたばこ価格の変化と喫煙経験者の喫煙量

たばこ価格が変化すると仮定した場合の喫煙量を喫煙経験者について集計した(表10)。回答者全体の場合(表6)と同様に、喫煙経験者についても、たばこ価格の上昇に伴い「吸わない」(カ

テゴリー7) という回答が増加する。「1日21本以上」、「1日11~20本」および「1日1~10本」(カテゴリー1~3)では価格の上昇に伴って回答者の割合は全体として減少傾向にあるが、その傾向は一様ではなく、増減がみられる。「週に数本程度」および「毎日必ずではなく、気が向いたときだけ」(カテゴリー4、6)については価格の上昇に伴い増加または横ばいであり、「月に数本程度」(カテゴリー5)は0で一定である。

200円の場合と現在とで喫煙量を比較すると、いずれのカテゴリーでも人数の割合に変化は見られない。

表 10. たばこ価格が変化した場合の喫煙量(喫煙経験者)

喫煙量	人数				割合(%)				現在の喫煙量(再掲)
	たばこ1箱の価格(20本)の価格				たばこ1箱の価格(20本)の価格				
	200円	600円	800円	1000円	200円	600円	800円	1000円	
1 1日21本以上	2	2	2	3	15.4	15.4	15.4	23.1	15.4
2 1日11~20本	5	2	3	1	38.5	15.4	23.1	7.7	38.5
3 1日1~10本	3	3	0	1	23.1	23.1	0.0	7.7	23.1
4 週に数本程度	1	0	1	1	7.7	0.0	7.7	7.7	7.7
5 月に数本程度	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6 毎日必ずではなく、気が向いたときだけ	1	1	1	0	7.7	7.7	7.7	0.0	7.7
7 吸わない	1	5	6	7	7.7	38.5	46.2	53.8	7.7
合計	13	13	13	13	100	100	100	100	100

表 11. 喫煙者の喫煙量と禁煙希望の有無(人)

喫煙量	禁煙希望あり	禁煙希望なし
1 1日21本以上	2	0
2 1日11~20本	3	2
3 1日1~10本	1	2
4 週に数本程度	1	0
5 月に数本程度	0	0
6 毎日必ずではなく、気が向いたときだけ	0	1
合計	7	5

表 12. 現在の喫煙状況別のたばこを吸う友達(人)

	喫煙者	非喫煙者	合計
友達が吸う	9	24	33
友達が吸わない	3	26	29
合計	12	50	62

5. 喫煙者の喫煙量と禁煙希望の有無

喫煙者に対して、禁煙希望の有無を尋ねたところ、12人中7人が禁煙を希望し、5人は希望しないと答えた(表11)。「1日20本以上」「1日11~20本」、および「週に数本程度」吸う者(カテゴリー1、2、4)については、禁煙希望ありの人数が禁煙希望なしよりも多い。

6. 現在の喫煙状況と友達の喫煙状況

「友達が吸う」か「友達が吸わない」かに注目し、喫煙者・非喫煙者別に、クロス集計表を作成した（表 12）。喫煙者の場合、たばこを吸う友達がいるという回答のほうが多い。非喫煙者の回答では、たばこを吸う友達と吸わない友達がいる者はほぼ半数ずつである。ここでは、喫煙者のほうが非喫煙者よりもたばこを吸う友達がいると予想し、帰無仮説を「喫煙者であることと友達が吸うかどうかとは関連がない」として、独立性の検定をおこなった。その結果、帰無仮説は棄却されない。すなわち、喫煙者であることと友達が喫煙することは関連しているとはいえない（カイ二乗検定、有意水準 0.05）。

7. 喫煙と健康に関する知識

喫煙者と非喫煙者について、喫煙と健康に関する知識についての質問に対する得点の平均値はそれぞれ 4.2 点と 4.1 点である。得点の分布は図 1 のとおりである。得点分布において喫煙者、非喫煙者ともに 5 点をピークとする。本調査における得点分布は、喫煙者においては単峰型であり、非喫煙者については、2 峰型である。

一方、マークした病気の数と比較したところ、図 2 のような分布となった。マークした病気の数が多いほど、その回答者はより多くの病気が喫煙と関連すると考えていると推測される。本調査における喫煙者がマークした病気の数で最も多いのは 1 個と 3 個、非喫煙者については 1 個であり、平均はそれぞれ 1.8 個と 2.2 個である。図 2 において喫煙者、非喫煙者がマークした病気の個数の分布はいずれも 2 峰型であるが、喫煙者のほうがより鮮明である。

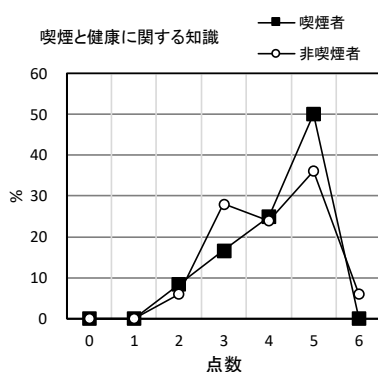


図 1. 知識に関する得点分布

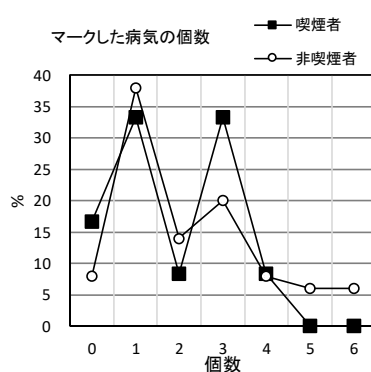


図 2. マークした病気の数

8. 依存度の比較

加濃式社会的ニコチン依存度調査 (KTSND) の結果を喫煙者、非喫煙者別に集計した。正常範囲にある割合は喫煙者 16.7%、非喫煙者 36.0%と非喫煙者のほうが高い。平均点は喫煙者 17.1 点、

非喫煙者 11.5 点であった（表 13）。非喫煙者の平均点は喫煙者よりも低い。正常範囲にある割合は非喫煙者のほうが高いものの、非喫煙者でも正常範囲にない者の割合のほうが高い。KTSND は「心理的依存に起因する「誤った思い込み」（認知のゆがみ）を定量化する質問項目から構成」されている¹⁶⁾。すなわち、本調査では喫煙者だけでなく、非喫煙者の一部も喫煙に対して「誤った思い込み」を持っていることを意味する。このことは、これらの非喫煙者が喫煙に対して寛容でありうることを示すとともに、今後、喫煙を始める可能性を示唆するかもしれない。

表 13. 加濃式社会的ニコチン依存調査の得点分布、平均点、および正常範囲にある割合

得点分布（人）	喫煙者		非喫煙者	
	0-9 点	2	18	
注：9 点以下が正常範囲	10 点-	10	32	
正常範囲にある割合（%）		16.7	36.0	
平均点		16.5	11.16	

表 14. 喫煙経験率（%）

調査の種類	調査の時期	データの属性	全体	男性	女性	回答者数
本調査	2017年10月	大学生（平均年齢 20.4歳）	21.0	28.9	0.0	62
中島（2017） ¹³⁾	2016年11月	大学生（平均年齢 20.4歳）	46.6	49.1	20.0	58
中島（2016） ¹²⁾	2015年5月	大学生（平均年齢 20.4歳）	33.3	50.0	0.0	27
中島（2015） ¹¹⁾	2014年4月	大学生（平均年齢 19.4歳）	23.3	26.8	8.7	120
中島（2014） ¹⁰⁾	2013年4月	大学生（平均年齢 19.1歳）	33.0	37.4	0.0	103
中島（2013） ⁹⁾	2012年4月	大学生（平均年齢 19.1歳）	23.5	27.4	9.3	200
中島（2012） ⁸⁾	2011年4月	大学生（平均年齢 20.1歳）	46.8	49.0	36.4	62
中島（2011） ⁷⁾	2010年4月	大学生（平均年齢 19.1歳）	29.4	33.8	13.6	204
中島（2010） ⁶⁾	2009年4月	大学生（平均年齢 19.3歳）	31.6	35.2	17.9	136
岩村他（2018） ⁵⁾	2016年10-12月	大学生（1～4年生）	5.6			1,201
玉江（2014） ²⁴⁾	2011年12月	大学生		29.9	2.6	253
原田他（2014） ²⁵⁾	2011年4月	大学1年生（平均年齢 18.6歳）	18.2	34.1	11.0	132
石川・高橋（2011） ²³⁾	2010年6～9月	大学1年生		26	11	276
石川・高橋（2011） ²³⁾	2010年6～9月	大学2年生		37	13	234
石川・高橋（2011） ²³⁾	2010年6～9月	大学3年生		39	14	116
角田他（2011） ²⁶⁾	2009年10月	大学3年生（男子学生）		35.0		157
東山他（2010） ⁴⁾	2008年12月-09年1月	大学生（平均年齢 19.8歳）	15.7	29.0	4.4	337
新井他（2009） ²⁷⁾	2007年11～12月	大学生（1～4年生）		17.2	1.9	459
中尾他（2007） ²⁾	2002年4～7月	大学生（平均年齢 19.2歳）		31.9	6.3	2,590

9. 喫煙経験率の比較

本調査における回答者全体の喫煙経験率（21.0%）は、2014 年調査および 2012 年調査と同程度である（表 14）。本調査における喫煙経験率を男女別にみると男性 28.9%、女性 0%である。男性の喫煙経験率は、2014 年および 2012 年調査よりわずかに高く、それ以外の調査における喫煙経験率と比較して低い。最初の一本を吸った時期の人数の累計値は、年齢とともに高くなる（表 8）。このことは、学年が上がると喫煙経験率が上昇する石川・高橋²³⁾の調査結果とある程度整合的

である。

IV. まとめ

本論は大学生を対象に実施したアンケート調査結果を述べている。調査の目的は、喫煙経験の有無、最初の1本を吸った時期および現在の喫煙状況など、大学生の喫煙行動の一端を調べることである。

結果をまとめると、以下のとおりである：(1) 喫煙経験率は回答者全体で21.0%であった。本調査における回答者全体の喫煙経験率は、2009～2016年調査よりも低い。男性の喫煙率もまた2009～2016年調査よりも低い(2012年調査、2014年調査を除く)。(2) 回答者の家族に喫煙者がいる場合、「父」がたばこを吸う割合が最も高い(29.0%)が、「父」がたばこを吸う割合は、家族が「誰も吸わない」割合(50.0%)より低い。たばこを吸う家族がいないことと、喫煙経験の有無とは統計的に有意な関連がなかった(有意水準0.05)。(3) 最初の1本を吸った時期として最も多いのは「20歳」である。次に「中学2年」「16歳」および「19歳」が多い。(4) 喫煙経験者の現在の喫煙量と、最初の1本を吸った時期には統計的に有意な関連はなかった(有意水準0.05)。また、日常的な喫煙者の多くは、「中学校」および「高校以降」に最初の1本を吸っている。日常的でない喫煙者は「高校以降」で最初の1本を吸っていると回答した。(5) 回答者全員に、仮想的なたばこ価格における喫煙量を尋ねたところ、価格が上がるにつれて「吸わない」者の割合が増加する傾向にある。(6) これまでの喫煙本数の合計が100本を超えている者ほど、現在の喫煙量において毎日吸っている者が多い。(7) 喫煙者において、禁煙希望ありの者は禁煙希望なしの者より多いが、両者の数は同程度である。(8) 喫煙者であることと友達が喫煙することは関連しているといえない(有意水準0.05)。(9) 喫煙と健康に関する知識に関して、喫煙者と非喫煙者を比較すると、得点分布については、喫煙者、非喫煙者とも5点をピークとする。一方、マークした病気の数の分布において、喫煙者は1個と3個、非喫煙者は1個をピークとする。(10) 加濃式社会的ニコチン依存度調査(KTSND)の結果、正常範囲にある者の割合は、喫煙者で16.7%、非喫煙者で36%であり、喫煙者のほうが非喫煙者よりも低い。また、喫煙者、非喫煙者どちらについても正常範囲にある者の割合のほうが低い。

喫煙という習慣を始めるかどうかは主として20歳代前半までの若年者の問題である。いくつかの文献^{2) 28) 29)}において、大学入学以降の喫煙開始の抑止が論じられている。その一つの手段として価格がある。しばしば議論されるのが、たばこ税増税を通じてたばこ価格を上げることによって、たばこへの需要あるいは喫煙者を減らす方法である。本調査における仮想的なたばこ価格と喫煙量の関係を見ると、たばこ価格の上昇に伴って喫煙量を低下させる者や喫煙しないと回答する者の割合が増加した。尾崎他³⁰⁾は、中高生を対象とする調査で、たばこ価格が上がると喫煙をやめるといふ回答者が増加することを報告している。ただし、過去に実施されてきたたばこ税

増税に伴うたばこ価格の上昇が中高生の喫煙行動を抑制する効果は、あまり大きくなかったかもしれないと結論づけている。他方、東山他⁴⁾は、喫煙者に対する直接的な質問により、「タバコにかける1日の費用」や「タバコにかけられる金額の上限(1日あたり)」「これ以上になると買う気がしなくなる1日の金額」について報告している。たばこ価格と大学生あるいは若年者の喫煙行動との関連については、調査の枠組みや方法を含め、検討が必要であると考えられる。

また、本調査とこれまでの調査(2009~2016年調査)を比較すると、本調査の喫煙経験率は、全体については最も低い。男性については、2012年および2014年調査を除く調査結果より低い。今後も喫煙経験率に関する継続的なデータ収集および検討が必要と考えられる。ただし、これまでの調査では、年により回答者数が変動するなど、データの信頼性に懸念がある。データの問題については、今後の課題として調査研究を進めていく必要がある。

謝辞

アンケートに協力してくださった学生みなさんに感謝します。

引用文献、注

- 1) 箕輪眞澄・尾崎米厚:「若年における喫煙開始がもたらす悪影響」『保健医療科学』54(4), 2005, 262-277.
- 2) 中尾理恵子・田原靖昭・石井伸子・門司和彦:「未成年期に喫煙開始した若者の喫煙に関する認識とニコチン依存度 —大学生の質問紙調査から—」『保健学研究』20(1), 2007, 59-65.
- 3) 漆坂真弓・高梨信吾・阿部緑・工藤誓子・三国谷恵・中村邦彦:「弘前大学学部生の喫煙状況と喫煙に対する意識調査」『日本禁煙学会雑誌』5(4), 2010, 111-119.
- 4) 東山明子・津田忠雄・高橋裕子:「大学生の喫煙意識—大学生喫煙者の喫煙実態と喫煙経費限界意識について—」『禁煙科学』3(3), 2010, 35-40.
- 5) 岩村健司・三村孝俊・嶋田かをる・中村京子・荒尾博美・鎗木誠・益満美寿:「熊本保健科学大学における学生の喫煙に関する実態調査」『熊本保健科学大学研究誌』(15), 2018, 89-99.
- 6) 中島孝子:「2009年における流通科学大生の喫煙行動」『流通科学大学論集—経済・経営情報編』18(2), 2010, 157-168.
- 7) 中島孝子:「2010年における流通科学大生の喫煙行動」『流通科学大学論集—経済・経営情報編』19(2), 2011, 121-133.
- 8) 中島孝子:「2011年における流通科学大生の喫煙行動」『流通科学大学論集—経済・経営情報編』20(2), 2012, 153-167.
- 9) 中島孝子:「2012年における流通科学大生の喫煙行動」『流通科学大学論集—経済・情報・政策編』21(2), 2013, 151-164.
- 10) 中島孝子:「2013年における流通科学大生の喫煙行動」『流通科学大学論集—経済・情報・政策編』22(2), 2014, 127-139.
- 11) 中島孝子:「2014年における流通科学大生の喫煙行動」『流通科学大学論集—経済・情報・政策編』23(2), 2015, 141-153.

- 12) 中島孝子:「2015年における流通科学大生の喫煙行動」『流通科学大学論集—経済・情報・政策編』24(2), 2016, 111-124.
- 13) 中島孝子:「2016年における流通科学大生の喫煙行動」『流通科学大学論集—経済・情報・政策編』25(1), 2017, 91-105.
- 14) 喫煙経験者であるのに喫煙経験のない者を対象とする質問に回答している、などのデータは無効とし分析対象から外した。
- 15) 井伊雅子・大日康史:『医療サービス需要の経済分析』(日本経済新聞社, 2002) .
- 16) 吉井千春:「ニコチン依存度テストの現在と未来 (TDS, FTND, KTSND) (特集 禁煙治療—保険診療の実際)」『治療』88(10), 2006, 2572-2575.
- 17) 柴田忠佳:「看護専門学校における看護学生の喫煙防止教育効果の検証: 加濃式社会的ニコチン依存度質問票 (KTSND) を用いた分析」『地域研究』(21), 2018, 25-44.
- 18) 財務省「たばこ税等の税率及び税収」
(URL: http://www.mof.go.jp/tax_policy/summary/consumption/127.htm, 2010年8月20日取得) .
- 19) All About ニュース「たばこ税増税1箱あたり100円以上の値上げへ」(2010年9月8日)
(URL: <http://focus.allabout.co.jp/gm/gc/290785/?from=dailynews.yahoo.co.jp>, 2013年8月31日取得) .
- 20) 財務省「日本たばこ産業株式会社製紙巻たばこ等の小売定価変更の認可をしました」(2010年7月16日)
(URL: http://www.mof.go.jp/tab_salt/topics/20100716_press.htm, 2013年8月31日取得) .
- 21) 財務省「フィリップ・モリス社及びブリティッシュ・アメリカン・タバコ社製品の小売定価変更の認可をしました」(2010年8月6日)
(URL: http://www.mof.go.jp/tab_salt/topics/20100806_press.htm, 2013年8月31日取得) .
- 22) または、この回答者は回答において選択肢を間違えた可能性がある。
- 23) 石川達也・高橋薫:「大学生の健康観: 喫煙およびムンプスに対する認識—日本福祉大学2010年アンケート調査からの検討—」『日本福祉大学社会福祉論集』124, 2011, 27-37.
- 24) 玉江和義:「九州地区教員養成系大学学生における喫煙行動の実態およびその関連要因の探索的検討」『教育実践総合センター紀要』31, 2014, 209-218.
- 25) 原田隆之・笹川智子・高橋稔:「大学生の喫煙支持要因の検討」『日本禁煙学会雑誌』9(2), 2014, 22-28.
- 26) 角田英恵・桂敏樹・星野明子・臼井香苗:「男子大学生の喫煙に関連する要因: 喫煙者と非喫煙者の比較から」『京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻紀要: 健康科学: health science』7, 2011, 37-42.
- 27) 新井信成・上地勝・富樫泰一:「本学学生における喫煙行動および知識・態度に関する調査研究」『茨城大学教育学部紀要(教育科学)』58, 2009, 423-438.
- 28) 中井久美子・高橋裕子・清原康介・苗村郁郎・立身政信・寺尾英夫・吉原正治・杉田義郎・森山敏樹・鎌野寛・盛岡洋史・池谷直樹・辻井啓之・山形然太郎:「全国国立大学法人における喫煙対策調査(2006年度調査)」『禁煙科学』2(4), 2008, 9-14.
- 29) 中井久美子・高橋裕子・清原康介:「大学禁煙化プロジェクトにおける喫煙大学生への禁煙支援介入の成果」『禁煙科学』2(4), 2008, 22-28.
- 30) 尾崎米厚・大井田隆・兼板佳孝:「中高生の喫煙状況と2010年のタバコの値上げの影響」『中央調査報』649, 2011, 5723-5727.